



かしわ ばら

いま す

柏原宿 ~ 今須宿

約 3.9 km

歩き旅

中山道ぎふ17宿とは?

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県のみ濃地方を東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

柏原宿歴史館

大正6年に建てられた旧松浦久一郎邸を改築したもので、平成12年に国の登録有形文化財に指定されています。1660年から295年分の宿のできごとが記録された萬留帳や正徳年号の高札の他、伊吹もぐさの看板や版木、皇女和宮降嫁の資料などが常設展示されています。

柏原宿

江戸より61番目の宿場となる柏原は、薬草の宝庫である伊吹山のふもとにあり、「伊吹もぐさ」で全国的に知られています。昔はもぐさを商う店が軒を連ねており、その繁盛ぶりは江戸時代末期に刊行された『木曾路名所図会』にも紹介されています。当時は、東西13町(約1.5km)にもおよぶ中山道の中でも大規模な宿場町であった様子が、まちのあちこちから感じられます。家々には昔の屋号を記したサインが取り付けられており、古い町並みとともに当時の宿場の雰囲気を感じることができます。

亀屋左京商店

伊吹もぐさの老舗で、現在も当時の建物のまま商いが続けられています。亀屋には福助という正直な番頭さんがおり、毎日、店頭でどんなお客様にも丁寧、親切、真心を込めて商い、店を大層繁盛させたといひます。耳たぶが大きいこの人物の噂が広がり、伏見の人形屋が、福を招く縁起物として福助人形を作ったところ大流行しました。お店には今も大きな福助さんの人形があり、愛嬌のある微笑みで訪れる人を迎えてくれます。

問屋場跡

今須騒動で知られる問屋場です。明治22年に今須の与八という木挽職人が中心となって一揆を起こします。生活難に苦しんでいた村人は、手にヨキ、ナタ、ノコギリなどの刃物を持って村役人宅を襲いました。問屋場だったこの家には、そのときの傷痕が残っています。

Topics

伊吹もぐさ

もぐさは、蓬の葉を乾かし、よく揉んで葉の裏にある綿状の白い繊維を集めたもので、「お灸」に用います。悪さをしたのをこらしめることを「お灸をすえる」といいますが、患部にもぐさをひねってのせ、火をつけて焼くと、イボ取りや化膿止めになり、ツボにすえると凝りや疲れに効くなど、様々な効能があります。江戸時代には旅の必需品でもあり、松尾芭蕉も『奥の細道』の冒頭に「もぐさの破をつくり、笠の緒付かえて、三里に灸すゆるより」と出発前の旅支度の様子を綴っています。三里とは「足三里」というツボで、疲労回復や消化器系統の機能向上に効果があるといわれています。

今須宿

美濃路の西端である今須宿は妙應寺の門前町として賑わいました。今は山里の静かなまちとなっており、昔の街道の風情を感じることができます。

